神永　醉狂だなア怎うも！

幸藏　ハヽヽ醉狂だね

神永を先に、一同が、宿の方に歩み去る。歩きながら幸藏は、荐りに靜枝をからかつて居る。

空が少し、うすぐらくなつて來る。渡り鳥の聲が一切り遠く近くきこえて、コスモスの花が風のまに〳〵たより無げになびいて居る。

橋の向ふから、おふみの親爺の源吉が、着物の上へ印半纏を着て、棒を持つて急ぎ足にやつて來て、方々を見まはす。

團（釣をしながら、重吉に）又來やがつた！

重吉（源吉の方を見て）娘は可愛いゝんだね。矢ッ張り！　然し、あゝ當人同志が惚れ合つちやあ、怎うにも手出しがなりあしねー

源吉は、役者の室の方から、樂屋口の方迄探して見て、かへりぎわに圖の方へ歩み寄つて、

源吉　おふみは來ちやゐませんか？

團　居らんよ！

源吉　柳つて人は居ませんか？

團　居らんよ！

源吉　居るんでせう

團　居らんと云ふたら居らん！

源吉　隱すんですね？

團　馬鹿！　居らんから居らんと云ふんぢや

源吉　左樣ですか（間）居なきや好いんです！　へん、皆して（みんな）たくらんだつて、そう〳〵勝手な事はさしやあしねーから（と行かふとする）

團　おい待て！

源吉　何です？

團　いくら君が心配したつて、そら無駄ぢやよ。若いものは、一途に思ひ込むんぢやからね、おふみさんをひどくすると、きッと死ぬぞ！

源吉　死んだつて構ふもんでか。親の眼をかすめて旅役者なんぞとふざけるやがる奴なんざあー

團　然し、已れはおふみさんのやうな美しい娘を殺したくないなア

源吉　役者なんぞに弄具（おもちや）にされてキズ物にされるよりあ死んだ方が親の身んなりや有難いんだ

團　馬鹿云へ！何しろ、已れの云ふ事をきゝ玉へ！　もう二三日立てば、皆此所に居なくなるんぢゃ！　二人の戀も、もう二三日ぢやないか

源吉　なあに、あの女はきつと後を追つかけてくに違ひね——

團　そうしたらそれ迄ぢやないか。一生の中にいく度もある事ぢやないから、娘さんの思ふ通りにさしてやつたら怎ぢや（重吉に）なアおい

重吉　人間にや、何に代へても仕度い事があるんだからね。生きてる以上は、してい事丈けはさしてやる方がいゝよ

源吉　べらぼうな——てんで談にならねー

源吉は、ぷり〳〵怒つて下手の奥へ歸つて行く。

と橋の方から柳と小川が大きな風呂敷包みを持つて歸つて來る。

團　柳、何處へ行つて來た？

柳　海を見たよ！　海を見て來たよ！　あー、實にうれしかつたよ僕は！　ねー小川君

小川　あゝ、僕は、夢を見て居るやふな氣がしたよ！　海はいゝねー君

團　海が怎うして、そんなにいゝぢや？

柳　いゝよ！　實にいゝよ！　恁廣々として居てね。僕はあの綺麗な波打ちぎわに立つて、遠く沖の方を見て居たら、自然に涙が出て來たよ

小川　それに、あの松原ねー

柳　そう〳〵！　團扇の畫にあるやうな所だつたね。細い道があつてさ（考へて）君、あの道を何處迄も歩いて行つたら何處へ行くんだらふね。僕は、あの道を幾度も幾度もしつかり踏みつけて來てやつた！

團　君達は、景色をみて面白いか？

小川　自然は、何時も美しいよ！

團　そうかなア——若い者はいゝなア

柳　何故さ？

團　戀は出來るしよ！（間）あゝ、今おふみの親爺が怒つて來よつたぞ！

柳　え？

團　然しなア柳、一時のなぐさみなら思ひ切れよ！　罪ぢやからなッ。君等は、此の先どんなに豪くなるのか分らん人間ぢや！　まだ〳〵此の先に樂しい事が、澤山あるんぢや！　目先の慾

望の爲めに一生を誤つたら不可んぞ（間）然し、君は、あの女と關係があるんか？

柳　そんな事はないさ！

圓　必らずないな？

柳　ない！　僕は、そんな考へで――

圓　よし〳〵！　間違つても體の關係なんぞ結ぶなよ！　いゝか、きれいな仲で、此所を出發しろよ！

柳　あゝ、大丈夫だ。僕は君に誓つてもいゝ

小川は、此の間に、風呂敷包を解いて、中から黑い大きな貝を出す。重吉は、その貝を見て居る。

重吉　怎うしたんです？

小川　海岸で拾つて來たんだよ君。いゝ貝だらふ？

重吉　何だつてそんな重いものを持つて來たんです？

柳　喰はふと思つてさ。此の貝がねー、波の來る所にどつさりあるんだらう。小川君と二人で取りながら歩いて居る中に、隨分歩いたねー君――

重吉　その貝は喰へねーんですよ

小川　喰へない？

重吉　此の土地ぢや、其貝は中毒るから喰はねーんですよ

柳　おや〳〵、折角取つて來たのになァ（と貝を拾つて）えゝ糞！（と河の中に投込む）

圓　アハ、、、、そのかはり、此の魚を燒いて喰はしてやるわ

柳　（バケツを覗いて）馬鹿に釣つたなァ

空が、段々と暗くなつて行く。小屋の屋根の後に、秋の夕榮が美しく輝き初める。圓は糸を卷いて釣を止める。重吉はバケツを持つて、小屋の方に歩み出す。

小川　見玉へ！　あの夕榮を！

柳　綺麗だなァ――

小川　あゝ、日が沈む！　僕が、こんな旅役者でなく、あの夕陽を眺めたら、どんなにいゝ感じがするだらうなァ、見玉へ！　見玉へ！（柳をみて）怎うしたんだい？

柳　空をみて居ると、胸が冷めたくなつて來るからイヤだ！　あゝ、齒の根が搽たいやふだ！

小川は、歌をうたひながら小屋の方に去る。圓も重吉もいつか姿を消して仕舞ふ。

柳一人川の岸に立つて居る。

とおふみが忍ぶやふに走つて來て、柳の側に立つ。つ　　二人は無花果の葉の蔭に座る。
空はいよ〳〵暗く、早くも一番星がまだ暮れきれぬ空に、ぬはく光り出す。
いづれともなく子供の歌きこゆ。

一番星見つけたー
長者にならうかー

歌は、いつの間にか、きれる。

柳　昨夜は有りがた！
おふみ　いゝえ！（と帶の間から仁丹の箱を出して）上げませう（と柳に渡す）
柳　何？　仁丹？
おふみ　いゝえ開けて御らんなさい

柳が仁丹の箱を開けて見ると、中から、五ッ六ッの銀貨がこぼれ落ちる。柳は、その意外なのに驚く。

おふみ　怎うして？　怒つたの？
柳　怒りやしないけど――又御父さんが來たんだつてさ先刻
おふみ　知つてゝよ！　妾ね――今朝から家を出てるのよ。だから、まだ一度も御飯を喰べない

の。（暫くして）もう、二三日で、何處かへ行つちやうんですつてね？（と柳の顔を見て、ほろりとする）
柳　あゝ――
おふみ　怎うしませう？（間）あんた、行かなくつちや成らないの？
柳　あゝ――
おふみ　ぢや妾、死んぢまふわ
柳　何故さ？
おふみ　だつて、つまんないんですもの
柳　又來るよ！　屹度來るよ！　皆が來ないでも、僕丈は屹度來るよ！
おふみ　何時？
柳　そりあ、明晰分らないけどね。屹度嘘はつかないよ！
おふみ　でも、その時　にや、妾居ないかも知れないわ
柳　何故？
おふみ　本當の御父さんや御母さん所へ歸へるかも知れないから。（間）妾ねー此所の生れぢやな

いのよ。阿波なの、でねー七ッ位の時に、今の御父さんに貰はれて來たんだけど、もう歸へるわ！

柳　怎うしてさ？

おふみ　イヤですもの此所に居るのが——。意地められてばつかり居るんですもの！　御父さんはね、藝妓にしやふと思つてるのよ妾を

柳　藝妓に？

おふみ　えゝ、でねー、藝妓になれば、役者の御女房さんに成つてもいゝなんて云ふのよ

柳　いけない〳〵！　藝妓になんぞ成つち不可ないよ、おふみさん！

おふみ　えゝ、だから妾、阿波へ歸へるの、だけど、本當の御父さんや何か、今生きてるか怎うだか分らないのよ。だつて、手紙も何にも來ないんですもの。でも行つて見るわ妾、で、もしも居なかつたら、海ん中へ這入つて死んぢやふわ

柳　海へ？

おふみ　えゝ、妾水で死ぬんですつてさ！（間）妾が死んだら怎うして？

柳　僕かい？

おふみ　えゝ！　困るでせうあんた？　いゝわ！　死にやしない事よ！

柳　死んだつて仕樣がないからね！　生きてる中が樂しみなんだからね

おふみ　そうねー、妾、今は隨分樂しみよー　柳さんも樂しみでしよ？

柳　たのしみだね

おふみ　柳さん、妾好きなの？（間）好きだはね。妾はね、初めて、あなたが梨を買ひに來た時から好きなのよ。それから、そら、停車場の側の宿屋に居た時、燒棒杭の垣根の所で會つたわねー

柳　あゝ、あの時分は知らなかつたんだね。他人だつたんだね

おふみ　でも又他人になるんだわね直ぐに！（と泣き出す）

柳　あ、泣いてるのかい？

おふみ　いゝえ！

柳　又來るよ！　ねッ又會へるよ！　だから泣いたりなんぞしないで御くれね（小屋で一番の太鼓を打ち初める）もう開くんだ！　行かなくちやならない

おふみ（柳が立ち上らふとするのを押へて）まだ早いわ！　もう少し！

柳　でも、後れると悪いからね、さッ、早く家へ御歸へりより

おふみ　妾、家へ歸へれないわ！

柳　何故？

おふみ　もう、屹度家へ入れてくれないわ！

柳　そんな事は無いよ！

おふみ　いゝえ、いゝえ、もう妾、家へかへらないわ

おふみは、袂で顔を蔽ひながら、川岸の土手下の方に下りて行く。柳は「おふみさん！　おふみさん！」と云ひながら、その後からついて行く。

やがて、二人の姿は見えなくなる。四方は全く闇に包まれて、小屋の中には、あか〳〵と火がつく。

團が人をたづねる樣で來て、又小屋に這入る。

しばらくして、柳とおふみとは、兩人（ふたり）とも首を垂れて、岸に上つて來る。そして、草原の上に立つ。

柳　ぢや、行くよ——（と小屋の方を向く）

おふみ　柳さん！（と柳の胸にすがりついて）もう他人ぢやない事よ！

柳　（おふみの顔をじつと見て）おふみさん！　怒つちや居ない！

おふみ　いゝえ！（とはれ〴〵しい顔をして）怒つてなんぞ居ないわ

柳　ぢや又會はふね！

柳が行かふとすると、おふみは、しつかりと縋りついて離さない。

柳　おふみさん！　芝居が開くんだ！

おふみ　——

柳　芝居丈けはやつとおくれ！　御願だから

おふみ　——（しつかりと柳を押へたまゝ、じつと顔をみる）

柳　（おふみの顔を見てゐたが心に何か決するらしく）おふみさん！（と女をつしかり抱へて）僕はもう何處へも行かないよ！　一生此所に居るよ！

おふみは、柳を離して、じつと男の顔を見入る。

芝居小屋で打ち出す着到の囃が景氣よく、夜の空氣に響き渡る。二人は、默つて立ちつくす。

——靜かに幕——

第三場

雜用宿

舞臺の下手よりに二室にしきられた廣い二重屋體がある。屋體にはまはり椽がついてゐて、正面の出這入り口は芝居小屋の方へ通じてゐる。

家の上手は、ずつと廣庭になつて、コスモスや蛇の目草などの外いろ〳〵の秋草があつて、やゝ遠く芝居小屋の側を流れる小川の堰が見えて、橋本屋の軒行燈が竹藪の間に見え、ずつと遠く川を越して向ふの町の灯がちらりほらりと光つて居る。

幕が明くと、室の中に前二幕に出でたる俳優、戎ホテルの主人など懶氣に屯して所在なさに碁をかこみ、古雜誌を讀みなどして居る。室の中には各自の旅行鞄。衣裳行李、手荷物など亂雜に置かれてある。夜の更け渡るにつれて夏衣裳を着のみ着のまゝの人々は肌寒むを感ずるので、布(きれ)を背中に背負ふ者、單衣の重着などする者がある。外は秋の小雨がそぼそぼと降りしきり、雲の往き來、吹く風の音などに、何處となく氣候不穩の氣勢が見え、不安の氣はいづれともなく襲ひ來る。

團と神永とはしきりに碁をかこむ。

女優等は戎ホテル主人の前に座して戎ホテルの話に聞き惚れてゐる。

小川と小水野とは家の隅に座して沈默してゐる。

神永　團！　貴樣の番だよ！

團　よし！

神永　馬鹿！　それぢや此所で勝つちまふぢやないか、ボヤ〳〵するなよ。もう駄目駄目！　てんで貴樣なんざ俺の相手ぢやない

と立ち上がつてあくびをする。

團　おい、ホテル！　五目をやらないか

幸藏　碁かい？　碁なら尾崎君とやつた方がいゝだらう、俺は今子供に話をして聞かして居るんだよ

尾崎　何んの話をしてゐるんだね？　御父さん？

幸藏　何の話つてお前、色々その世の中の話をさ

神永　お父さんの世の中の話も聞き飽きたなア

幸藏　お前なんざア、てんで、己らの言ふ事を馬鹿にしてかゝるから駄目なんだよ

神永　馬鹿にはしちや居ないさ、けどね、世の中の話をする人が世の中の事を一番知らないんだからなア

幸藏　俺らが世の中を知らない？

尾崎　さうさ、此の世智辛い世の中にさ、取れない貸と知りながら、一所に人質に取られるなんざア、あんまり利口ぢやないからなア

幸藏　だから、お前は世の中を知らないと言ふんだよ。俺らの今の心持を分るにやあもつともつと苦勞しないぢや駄目だ

神永　此の上苦勞してたまるもんか。先乘りからは返事が來ず、人質に取られた揚句に、柳はドロンする、お父さん考へてごらんよ！

幸藏　そんな事が苦勞なら、乞食が一番世の中を知つてる譯だ。俺の言ふなアそんな事ぢやないよ

團　何でもいゝ、俺は一日も早く御膳に向つて飯が食ひたいなア

尾崎　名言ですな！　あるひは辨當、あるひはうどんお、鉢からお茶碗によそッて飯を食はざる

事今日で何日になります。太夫元、怎うしてくれるんだね

神永　それ丈けはやめてくれよ。冗談にもそいつを云はれると俺のカラ元氣もにぶるんだ！　誰が好きこのんで、そんなものが食はしたいもんか。一日も早く此所を立つて皆に宿やの飯が食はし度いよ

幸藏　宿屋のめしの有難味が分つたな！

團　イヤ、然しお父さん所のめしはひどかつたよ。一日增に段々おかずが悪く成つたからなア

幸藏　そりや、當り前よ！　とても拂ひさうもないから段々元を掛けねー樣にしたのさ！　あの時分は全く他人だからな

神永　兵糧攻めをくはしたんだな。僕はね、お父さんの顏をじつと見て居ると、あの帳場に座つてた時の事を思ひ出して、これがあの因業なぢゝいかと思ふと可笑しく成るよ

幸藏　ハヽヽヽ、俺も、神永ッて奴は泥棒より僣いと思つたからなア。それが今は我子のやふに可愛いんだから不思議だよ

神永　どうだね、養子にしないか、俺を……

幸藏　ハヽヽ、養子にするなら尾崎の方がいゝよ。同じ事でも勳章を持つてるだけまだいゝ

尾崎　俺はお父さんの養子に成るのはイヤだよ。一生あんな田舎にくすぶる氣はないからね

暫く沈默がつゞく。

草野　怎うなるんだらふね、神永さん！（としみゞ〳〵云ふ）

神永　さア、今日は何んとか云つて來るだらふ

草野　何をしてるんでせうね。立つてから四日にもなるのに……

神永　一生懸命に奔走してるんだよ。可哀想に俺は昨夜山口の夢を見たよ

草野　どんな夢？

神永　あのへんてこな帽子をかぶつてね、川べりを一人で歩いて居たつけ

又暫く沈默がつゞく。と奥から表方が靜かに這入つてくる。

表方　神永さん、まだ怎うともきまりませんかね？

神永　まだです！

表方　まだですは困るなア。明後日から舊派の下廻りが此所へ宿る事に成るんですがね

神永　さふですか。で吾々に立ちのけとでも云ふんですか？（間）然し吾々は、あんたと知つてるが、人質に取られてるんですからね、それとも、あなたの方で借金のかたをつけてゞもやら

ふつてんなら、今直ぐでも立ち退きますがね

表方　いえ、眞面目な話をして下さい。私も座主の方と板ばさみに成つて居るんですからね、何とかして下さらないと困りますよ

神永　よう御座んす、何とかします。然し今夜つて譯には行きませんからね

表方　そりや分つてますがね、先刻から又例の人達が大勢來てますからね、あの方も何とか云つてやらないぢやあ……

神永　勿論です！　借金取りは兎に角敷理しやふと思つてるんですから

表方　整理か……とにかく賴みますよ

神永　よろしい！　承知しました

表方行きかける。

尾崎　君、何か食ふものはありませんかね

表方笑ひながら出て行く。

行きがけに思ひ出して女優靜枝に手紙を渡して行く。靜枝室の隅で手紙を讀む。そして泣き出す。

幸藏　おや、あの子は泣き出したよ

尾崎　怎うしたの？　靜枝さん？

靜枝　姉さんから手紙とお金が來たんですよ

圖　金が來た？

靜枝　えゝ（と手紙を神永にみせる）

神永（手紙を讀んで）靜枝さん、すまないねー　こんな心配をかけてゐるとは思はなかつたよ、僕は。ぢあね、其のお金を取つて明日の朝一番で東京へお歸り

靜枝　でも……

神永　なあに、遠慮は入らないよ。吾々は今歸へらふとしたつて怎うしても歸へれないんだから、都合がついた人は遠慮なく歸へつた方がいゝんだよ。いつ迄行つても怎と言ふ當はないんだし、若い女が秋が來たつてのに單衣物でふるえてゐるのはいゝ事ぢやないよ

幸藏　全くだよ。お歸へり！　お歸へり！　そしてもう役者なんぞ止めるこつた！

靜枝　神永さん、妾いゝわ（と何やら耳打をする）

神永　そいつはいけないよ！　そんな人情を出すもんぢやないよ

圖　何ぢや？

神永　イヤね（と云ひかけると靜枝が押へて）

靜枝　およしなさいよ！

神永　此人がね、此金でみんなで御膳をたべに行かふと云ひ出したんだよ

尾崎　そいつはいかん！

神永　いけないとも！　どうぞそんな事は止めて歸へつてくれ給へ。御願だ！　僕は借金取りにせめられるなア平氣だけど、人情でせめられると實にたまらないんだからね、兎に角明日お歸へり

靜枝　いやですわ、妾！

神永　だつて歸へり度いと云つてやつたんぢやないか

靜枝　えゝ、ですけど、妾何だか皆さんに別れてくのは悲しいんですもの。それにね、妾よりは小川さんの方がどんなに歸へりたいか分らないんですから、若しなんなら小川さんに……

小川　いゝえ、僕はよう御座んすよ

神永　とにかくね、誰一人として皆歸へりたい者ばかりなんだ

圖　全くぢや！　俺も歸へりたいんぢや、だからね、靜枝さんはお歸へり！　そして東京の便り

でも聞かしておくれ

小川　さふだ、さふなさい。そうして下さい。やがて僕等も怎うにでもしてかへりますからねッ、一日も早くかへつた方がよう御座んすよ

暫く沈默がつゞく。

尾崎　どうもひどく滅入つて來たね。空景氣でもつけてないとやりきれないな。まるで恁う始末屋に下げられてるイキだからね

神永　始末屋か。怎うでこんな室に五日も六日もぶち込まれてる役者なんだからな、見給へ！此の室の樂書を。景氣のいゝ事は一つだつて書いちやないから

團　「出るものは、あくびの外に屁と涙、朝晩立つは腹とレコなり」か、うまい事を書いたな

尾崎　「あゝ棚よ、あゝ棚よ、汝に別る、悲しいかな。明治四十三年初春興行千秋樂」か、こいつは樂の日に書いたんだな

團　「高田實は我が第二の門弟也」か

小川　「此の小屋は牛と狐の鳴き別れ、もうコン〳〵……」

尾崎　「夫誅せよ、雜用の狸バヽアを！」ハヽヽヽよつほどまづいものをくはしたと見えるな

神永　とにかく、いろんな奴が出たり這入つたりしたんだなア。華やかな芝居の裏にはいろんな悲しい事があるわい！

おわかが靜かに壽司の皿を持つて登場。

おわか　皆さん、今日は……

皆々　今日は……

おわか　つまらないもんですけど、あがつて下さいな

尾崎　御通しものは恐れ入りましたな、此所へ來てから始めてだハヽヽヽ

おわか　そんな譯ぢやないんですけど、すやに成つたのが有たもんですから……何日御立ちです？

尾崎　分からないんですよ。何しろ人質だから……

おわか　一生居らッしやいよ、折角御馴染に成つたんだから、御別れするのはイヤですわ

尾崎　ぢや、皆しておわかさんに養つて貰ふかね

おわか　えゝえ、養ひますとも！　團さん（と眼づかひをして）ちよいと！

團　何だ？

おわか　一寸、顔をかして下さいませんか？

尾崎　よう〳〵！　親分、やすくないぜ！

おわか　そんなんぢやないんですよ

　　圖とおわか廣庭の方へ去る。

尾崎　いゝ女だね

幸藏　男惚れのするつて奴だね

尾崎　あれで役者に惚れないつてんだから惜しいもんだ

笹川　（むつくり起きて）誰が？　おわかさんがかい？　そんな事があるもんか

尾崎　でも、あの女は役者に惚れないと決心してるんだもの

笹川　駄目、駄目！　いくら決心したからつて、僕をしてもう三日間此の地にあらしめばだね、

　　屹度物にして見せるよ

尾崎　そりやア、不可ない！　いかに君の色魔的手腕を以てしてもあの女だけは駄目だ

笹川　いゝや、女なんてものはね、そりやイザとなると案外弱いもんだよ、君

久子　そんな事はないわ！

笹川　そりやあ、自分をあんまり買被り過ぎた考へですよ

久子　そうですかね

笹川　そうですとも

久子　へー、そんなもんですかね。けどね、妾は笹川さんには惚れない事よ

笹川　恐れ入りましたね、僕も女優さんばかりは色にする氣はありませんね

久子　よくつてよ！　隨分だわ

幸藏　そう怒りなさんなつて事よ、久子さんいや、俺がついてるぢやないか

久子　いけすかないよ又！　やかんのくせに

幸藏　やかんはしどいなア

久子　御父さんにやあのお袋で澤山だわ

神永　イヤ、あの袋は尾崎君の專有物だよ

尾崎　冗談でしよ（と赤くなる）

神永　いゝやそうさ

久子　あらッ、尾崎さん——

尾崎　うそだよ！　そんな事は！

神永　うそなもんか

尾崎　そりや冤罪だよ、冤罪だよ。何ほ何でもあんまりひどい

小川　ひどい事はないでせう

尾崎　おや？　君までそんな事を云ふのかい

小川　えゝ、僕は見てますもの

神永　それ見給へ！

久子　驚いたわね

笹川　實に驚いた

尾崎　いゝや、うそだよ！　どうも兎角男がいゝとそねまれます

小川　でも尾崎さん！

尾崎　もういゝよ君！

神永　よかない

尾崎　許してくれ！　あやまる、あやまる

久子　まア、尾崎さん赤く成つてよ、顔をみせて下さいよ

（團とお若靜かに這入つて來る。）

團　（靜かに座って）みんな、話があるんぢや

神永　何だ？

團　柳が歸つて來たんぢや

小川　柳が？　どうか呼んで下さい。僕はあの男が居ないと淋しくつてたまらないんですから（とかぶりつくやふに云ふ）

團　待ち給へ！　兎に角役をして居乍ら無斷で三日も逃げ出して居たんだから、それに就いては皆迷惑してゐるんぢやから、此度の事は單に愛情ばかりぢや不可ん！　惡例を殘す事に成るんぢやがらな

小川　で、何處に居るんです？

團　おわかさんの所に來て皆に詫びて呉れと言ふんぢや。皆の意志はどうだらふ？　許してやるか、それとも首にするか？

小水野　無論、首でせう……

小川　何？（といきまく）

團　神永君どうする？

神永　入れてやれ、俺れも會いたいから……

團　尾崎君は？

尾崎　芝居道から言えば首さ、けれど可哀想だからね

草野　ほんとに、入れて下さいよ。皆同んなじ困つてるんですからね

團　笹川は？

笹川　意見なし

團　はつきり云ひ玉へ！　入れるのか入れんのか曖昧な事を言ふな

笹川　恐れ入りました（と首をすくめて）御入れ下さい

團　御父さんは？

幸藏　入れてやるさ

團　よしッ。小水野！　不賛成は貴様ばかりだぞ

小水野　えいけど、皆さんさえ

團　よろしい！　ぢや誰れか。おわかさんと一緒に迎えに行つて來てくれ

尾崎　よろしい

笹川　（尾崎が行かふとするのを止めて）あゝ、俺に行かしてくれ

と三人鳥渡爭ふ。

神永　誰れでもいゝ、早く行つてやれ！

笹川とおわか出て行く。

小水野つゞいて出様とする。

團　何處へ行く？

小水野　鳥渡、便所へ……

小水野こそ〳〵と出て行く。

團　又柳の物を盗んだんぢや

久子　あの人は本當の泥棒なのね。で怎うすんでせう？

神永　逃げたのさ！　歸つて來る者もあれば居られなく成る者もあるんだ

柳は頻にげつそり瘠をみせてしほ〳〵と歸へつて來る。

小川　柳！　よく歸へつて來たな（となつかし氣にむかへる）

尾崎　笹川は？

柳　おわかさんと……

尾崎　畜生！（と唇をかむ）

神永　何？

尾崎　何、こつちの話だ……（とごまかす）

團　柳、何處へ行つて來た？

柳　皆さん、濟みませんでした！（と詫びる）

團　不心得の奴ぢやなア、貴樣は、俺の言ふ事が皆分らなくなつたんだな

柳　そんな事はないんですけれど……

團　馬鹿野郎！

神永　責めるな、責めるな！（間）柳、一人で歸へつて來たのか

柳　え……實は、僕、團さんにも、神永さんにも御賴みしたい事があつて來たんですけど……

神永　聽かう！　おふみさんが居るんだらふ？

柳　えゝ！　外に立つてゐるんです

團　何だと？（と怒る）

神永　怒るなと云ふのに！　尾崎君入れてやり給へ！

尾崎、おふみを連れて來る。

おふみしほ〳〵として柳の側に座つて頭を下げる。草野、女優二人に眼くばせして次の室に去らせる。

神永　柳、腹が減つてるだらふ？　喰へ！

柳　えゝ

神永　おふみちやんもお上り

おふみ　……

神永　柳、何にしに來たんだ君は？　賴みと云ふのは、かくまつてくれとでも云ふのか？

柳　えゝ、おふみちやんがもう家へ歸へれない事に成つたんですから

團　馬鹿野郎！　腹が減つたから歸つて來たんぢやらふ。それ迄は俺の事も一座の事も忘れて逃げ出さふとでも思たのだらう。駄目だ！　今更に成つて、何の樣だ！　出て行け！　勝手に出て行け！

柳　えゝ、でも……

園　貴様みた様な奴はないぞ！　俺があの日何んと云つた

神永　待て！　園、待つてくれ、柳だつて俺達だつて同じ事だ。口に藝術を唱へて居ると金と云ふものがせめてくる。戀をして居れば親や生活がせめて來るんだ。どつちに從つて行つたらいか俺にや分らない。けれ共、柳、お前が自分の好きな事をする爲めに吾々の助けをかりる事は出來ないぞ。吾々の團體殘らずが、御前の爲めに罪を作る事は出來ないぞ。それ丈けは分つて居てくれ。其のほか俺は何にも云ふ事はない

園　分つたな柳、分つたら思ひ切れ！　切れないのか？　不義の快樂をむさぼつて何時迄安逸で居られる譯はないぞ

草野　柳さん！

柳　えゝ？

草野　今ね、園さんや神永さんの云つた事は分つて？　おふみさんにも分つて？　妾がね、こんな事を云ふのは變ですけどね、あなたがおふみさんを思つてるなら別れなきや駄目よ。おふみさんも柳さんを思ふなら別れた方がいゝのよ。あのね、世の中ツてものは、今お前さんが、考

へてるやふなもんぢやないんですよ。だからね、あなたが柳さんを本當に思ふなら柳さんを自由にして上げるのがいゝんですよ。それでないとね、あなたも柳さんも、一生涯くだらない事に成つちまふのよ。けれどね、こんな事を云つたつて、今のおふみちやんにや分からないでせうけど、柳さんもね、まだ〳〵先のながい人なんだから、本當に柳さんが好きなら柳さんがもつと〳〵偉くなる迄待つてゐられるでせう、そうして下さいね。でないとみんなが此の土地を立つた後まで、惡名をつけられて、もう一度此所へ來たくつても來られなく成るでせう。ふみちやんの心一つで皆が困るか、困らないかゝんですから、今は思ひ切つて別れて、御父さんにあやまつて家へお歸へりなさい。妾もねたのみますわね！　御願ひだからさふして下さい

幸藏　全くだよ。おふみちやん！　小父さんも、うす〳〵は知つて居たんだけれど、よもやこんな事に成るまいと思つて居たのさ。けれど出來た事は仕方がない。けど仕方がないからつて惡い事を續けるの尙惡い。諦めなさい！　諦めなさい！　そうしていゝ心持で別れなさい。小父さんは惡い事は云はないから。でね、もしも御前一人で困るなら小父さんが連れてつてやらう。そして御父さんにあやまつて上げやふ。御前だつて御膳を喰べずに此の雨の降る中をいつまで歩いて居たい事もないだらふ？　ね？　夢を見たのさね。夢がさめれば何んでもありやしな

い。さあ、小父さんが連れて行つて上げやふ、さあ行かふ！　え、一緒に行かふ！

戎ホテルが連れて去らふとすると、おふみも柳も泣き崩れて仕舞ふ。

園　柳！　何んと云ふ様だ。貴様はあれほど世話になつた一座に見返つても此の女が戀しいのか？　男らしくしろ！　男らしくしろ！　貴様怎うしたんだ。貴様がいくら別れないと云つても俺は別れさすぞ。どんな事をしても別れさすぞ！　返事をしろ、俺は覺悟があるぞ！

幸藏　まあさツ。そふ云はないでも別れますよ！　別れますよ！　ねツ柳君。さからふもんぢやないよ。强情を張るもんぢやない。さあ、ふみちやん行かふ

草野　よう御座んす。妾がもう少し話をしますから、そうしてよく分かつてからにしますから。さあふみちやん外へ行きませう。一緒に行きませう。そして色々と話をしませふ

神永　當人同志二人で出してやり給へ。二人で話をさしてやり給へ。柳も分つて居るんだから、それでいゝぢやないか（間）柳、吾々の云つた事は分つたらふ

柳　――

神永　分つたらよく話し合つて早く歸へつて來い。屹度歸へつて來いよ

柳　えゝ

神永　ぢや行つて來給へ

柳とおふみ泣きながら出て行く。

尾崎　みんな議論はうまいな！　僕は驚いた。小川君又考へたね

小川　怎うなるんでせうね

尾崎　怎うにかなるさ

處へ大道具を先きに、妓夫、料理屋、その他借金取共は一組に成つて這入つて來る。女優二人も靜かに室の中に這入る。借金取りは一室に座る。

此方の方の人も皆居住ひを直す。

妓夫（平助）神永さん、怎うしてくれます

と言ひ出すと皆一時にがや〳〵と騷ぎ出す。神永は考へ込んで居たが思ひ決するらしく。

神永　皆、靜かにしてくれ給へ！　騷いだつて話は分らねえ、一體揃つて何しに來たんだ

平助　何しに來た？

神永　待ち給へと云ふに！　園うるさいから、そつちの室へ借金取控所と大きく書いてくれ！

さつきも云つたんだ。色々と整理の都合もあるから暫く待つ居てくれと賴んであるんだ。揃つ

て來なくつても此方から知らせに行く所だつたんだ、面白くもねえ。整理さえすれば、文句はない筈なんだ

大道具　太夫元さん、整理はいゝけど、今日は只の話ぢやありますまいね？　私はもう今夜こそは只の話ぢや承知しませんからね。それ丈けは云つときますよ

神永　勿論です……

平助　ぢや拂ふつてんですか

神永　一人一人に返事は出來ない！　僕は本當の事を云つてるんだから、聞き逃がさない樣に願ひませう。怎なり恁なりの方をつけなきやあならないんだ。けれども、あらかじめ斷つて置きますがね、分る話丈けは騷がずに聞いて下さい！　話の途中に騷がれると、とんでもない事になるから、兎に角只今總てを整理する、それ丈けは安心して下さい！　恁うなると、おゝお父さん、お父さんも向ふの組へ這入つて貰はふ。控所の方へ行つて貰はふ

幸藏　私もかい？

神永　そうさ。君は一番多く吾々に貸があるんぢやないか

幸藏　でも、今更他人行儀の樣ぢやないか

神永　ぢや這入らないのか

幸藏　そりやお前……

神永　這入るなら向ふへ行つてくれ玉へ！　それでないと、けりがつかないから

戎ホテルは笑ひながら借金取りにまざる。

神永　さて長い事お待たせしましたな。初日から今日まで、毎日毎日同じ樣な事ばかり言つて皆さんを怒らしたのは全く僕が悪い。イヤ、實際濟まない、それ丈けは今日あらためて、深く御詫びしますよ

神永が頭を下げると、皆はまばらに頭を下げる。

神永　で、今夜こそは、ぴつたり埒を開けませう！　何時迄も同じ事を繰り返へして居るのはお互に苦痛ですからな。然し御承知の通りの一座ですから、皆さんに拜借してゐるものは今全部きれいに御拂ひすると云ふ事は、こりあ出來ない相談ですから……

平助　そんな、ちよぼいちがあるけい！　今、何て云つたんだ？　たつた今何て言つたい？

神永　これだ！　僕も今何て云つた？　話はみんな聞いてからにしてくれと云つたぢやないか。今迄もいつでも君から事がこわれるんだ、あんまり分らないと了見があるぞ！

平助　何だと？

大道具　おい！　靜かに頼まふ、お前一人の金を取りに集つて來たんぢやねいんだからな。みんなが默つてたら靜かにしてくれ

皆々　全くだ、全くだ！

神永　いつも怎うなんです。元々、貸した方と借りた方なんですから、そりあ色々面白くない事もあるでせうけど、これぢや僕には話が出來ませんよ。ですからね、今日は一つじつくり膝組で話しませう！　其の方がいゝでせう。いゝ心持で話さないと、遂言葉の上の喧嘩になりますからね。（壽司をすゝめて）さあ、怎うです？　殘りもんですけど、つまみませんか、えゝ？　一ツ怎うです？　おいお父さん、君から手を出さないぢや駄目だ。重吉喰へよ、おいボヤ喰へよ！　（皆々もぢ〳〵する）然し此の邊は夜が更けると實にいゝですな。東京はまだセルの時候ですけれど……怎うです？　もう少しかたまりませんか。それで、さてこれから整理ですが、御存じの通り、金が全部整つたと云ふわけではないんですから、先づ金高と順とを伺つて、その上で何とか、御相談の出來る樣にして頂きませう。頭領、そんな顏をしないだつて大丈夫ですよ。今夜こそ與太ぢやないんだから

大道具　ふゝん、まあいゝや、私も敵討に來たつもりぢやねいから、出來る丈け話をして、それで何とかいゝ心持に成りていと思つてね

神永　全くです！　園、覺書を出してくれ玉へ。（園は覺書を取り草野に何やらさゝやく。草野と二三の俳優外に出る）此所に其の覺書があるんですが、これにもれてる方は遠慮なく云つて頂きませう

借金取口々に色々の事を云ふ。

神永　よろしい、分かりました。で順から行けばそこに居られる戎ホテルさんの七十八圓六十錢と云ふのから、そこに居るボヤの六十圓、それから松葉屋さんの三十圓ですが、それから重吉の車代……

重吉　私の方は、何時でもよう御座んすよ。大抵事情も分つてるんですから

神永　いゝやよくない！　借りは借りだから拂ふと成れば拂はなくつちやならない

重吉　そふですか、そりやあ頂くに越した事はないんですけど……

神永　拂ひます！

重吉　へい、ですけど……

神永　うるさいな！　拂ふと云つてるぢやないか……

一藏　神永さん。私はね、あんたのそれが誠に氣に入らねえんですがね。何て云ふと戎ホテルさん、重吉、ボヤだつてんで、それが我慢するから手前達も我慢しろ、我慢しない方がふていつてな云ひ草がね。何だか恁う山かんの様な氣がするんですよ

神永　何故さ？

一藏　今入らねえつて云ふんなら其の方は後にして、其の次のから始められねえ事はねえんですからね

神永　然し、順が……

一藏　そこですよ。順も何も當人かいらねえと云ふものを拂ふ拂ふつて、威張るなア變ぢやありませんか。そんな話はなしにして下さいな。ねえあんたはなかなか利口だ。利口だけどまだ年が若い處があると私は思ふんだ。ねえ借金を踏倒すんなら、倒された奴がいゝ心持で居られる様に倒して貰いていんだ、私は……

平助　べらんめい！　倒されてたまるか、餘計な茶々を入れるねー、面白くもねー。何てふと一人で孔子様か何ぞの様な事を云やアがつて……

大道具　おい、それが何か理屈んなるのけい？　冗らねー事は一際よしにして貰はふ

一藏　冗らなかないでせう

大道具　冗らねーぢやねいか。向ふがまだ口をきいてる最中ぢやねいか

幸藏　とにかく同士討はいけない。恁なさい！　私はどつちのひゐきもしない、神永の云ふ事丈けは云はしてやつたら怎うだ

大道具　ですから、私は先刻からそふ云つてるんでさあ

一藏　で、いゝぢやねーか

大道具　何だつて？

一藏　まあ、勘辯して下さい！　何でもいゝ、話をつけて貰はないと又一晩無駄だから……

神永　全くです。ぢや御話していゝですかな？

幸藏　どうぞ！

神永　くどい様ですが、今の順ですね。で順から行つて大きい所二三は、今云ふ通りまあ、待つて貰へるものとして、其の後ですが、これ丈でつもてみてもざつと三百圓の金があれば、何〻皆さんに、こんな御相談はしないだつて事は濟むんですが、お恥かしいが、三百圓は愚か今此

所には三圓の金もないんです。（一座どよめく）困るなアー、そう騒がれちやあ……怎うでせう、皆さんの中から誰か一ッ代表者つて事になつて頂けないでせうか？

幸藏　それよりも、てんでに離れてないで、もつと側へ寄つて、お互の腹ん中の事をあらひざらひ云つたら怎うです。ねー皆さん、もつと一とかたまりに成らふぢやありませんか

神永　そうして下さると實に嬉しいんです。ぢや此所へ來て頂きませう。さあさあ、皆さん來て下さい。おい重吉！　ボヤ！　來いよ

皆々神永の暗示にかゝつたやふに、立つてかたまる。

幸藏　君も來給へ！

平助　イヤな事だ。今日迄さんざばら、つられてるんだからね、話のつく迄は此所に居るよ、俺ア……

大道具　まあさ、そんな因業な事云ふねー

平助　因業は昔からでい

大道具　何？

平助　怎うしたと？

大道具　やい！　いくら女郎屋だつてな、交際（つきあひ）ツて事を知らねーか、此間抜奴！

平助　間抜けたあ何だ

大道具　間抜けぢやねーか

平助　何ぬかしやがるんでい、此の獸め！

大道具　獸だ？　どつちが獸だい

平助　手前の事よ！　四ッ足め！

大道具　何を、此の前科二犯め！

平助　何？

と立ち上る。皆々止める。

大道具　ぢやあ私と此料理屋さんに御話を願ひませう。皆それでいゝだらう？

皆々それに贊成する。

神永　そうですか、ぢや御話しませう。とにかく今は金が一文もないと思つて頂きたいんです

大道具　で、怎うなるんです？

神永　ですから、怎うなるつて云つて別に方法もないんですから、一つ貴方がたの氣の濟む樣に

して戴かふと思ふんです。

大道具　ぢや整理でも何でもないぢやないか。おまはん、そんなだらしのねー事で今時通ると思つてるんかい

神永　通るも、通らないも……

大道具　いゝえさ！　おまはん、今迄何て大きな事を云つたんだよ

神永　別に大きな事は云はない筈ですがね

大道具　俺あ、直ぐぢりぢりする質なんだ。人をはぐらかしつこなしにしやふ。そふ願はふ！今聞いてりや、三百兩の脊中に三兩の金もねーつて話だね、それで氣のすむ様にして貰はふと云ふんだね？

神永　そふです

大道具　おう、皆んな聞いたかい？　怎したらみんな氣が濟む？　此の人はみんなの氣の濟むやふにして一文も拂はねーんださふだ。皆んな怎する？　（間）已らあ、そう云はれりやする事があるよ

神永　何ですか？

大道具　女優さんを賣つて金にして貰はふぢやねいか。幸あすこに妓夫太郎が居るんだ。あいつにふましてよ、それで金にしてもらはふぢやないか

幸藏　人身賣買つて事になると……

一藏　御父さんは默つてゝ貰はふ。怎うして二人が責任を脊負つてる事になつてるんだから

幸藏　そうかい（としよげる）

大道具　どうだい太夫元さん。今の話が氣の濟む様な仕方だつたらおまはん、してくれるけい？出來まい？

神永　出來ます！

大道具　出來る？

神永　出來ます！

此の話の間に女優等は酒肴などを買つて來る。尾崎等はそれ〴〵の仕度をする。柳が悄然と這入つて來て、小川の側に座る。園は柳に色々な事を小聲で話して居る。

神永　けれどね、先刻も云ふ道り全部出來ない迄も例へ一部だけでもかたがつけばいゝんでせう

大道具　よかあねーさ

神永　いえ、よくないのは分つてますが、私の方で出來る丈の事をしたらば、我慢して下さるでせう

大道具　そうさ、これ丈の人間の顔さい立てゝくれゝばだ

神永　よろしい！　それでは、恁うして下さい。僕は皆さんに此の一座の衣裳かつら持物全部と僕の體とを投げ出して我慢してもらいませう。それならば文句はないでせう

一藏　大ありさ！

神永　何がです？

一藏　それならばだね、何故もつと早くしてくれないんです？　え？　御前さんの方にそれ丈けの考へがあるんなら、何故樂の日なり、そのあくる日なりに自分の手で始末して、金にしてくれなかつたんです？

神永　然しそれは先乘の返事次第で御拂ひが出來ると思つたからなんです

一藏　ふざけちやいけない。そりあ云ひ逃れつてもんだ！　てんで實意ッてものが、御前さん方になくつて、まかりまちがへば拂はねー氣なんだと私は思ふよ

神永　そんな事はない！　拂はない了見のものが物を出す理窟はないぢやないか

一藏　だからさ、どんすまりに成つたからぢやねーか。いくら旅藝人だッて一體やり方があくどすぎるッて云ふ事さ。いゝかい？　俺らねー、チーハは買つてもバクチは打たねー男なんだ。そいつあ負けた男の面を見るのがイヤなんだからだぜ。持物ッて云へば御前さん方の商買道具だ。そいつをさ、見てゐる前でさばいて金にしろッたつて、そいつあ無理だ。又第一そんな小ぎたないものがいくらに成るんだ。そんな了見なら御前さんの方でさばいて直ぐに金にしてもらはふぢやねいか。ねーおい！

一座どよめく。

神永　それぢやあ、己が女房を見てゐる前で女郎に賣れつて云ふのかい？　身にも皮にもかへられない商買道具を手前の手で賣れつていのかい？　考へてくれ！　これ丈おとなしく出てゐるのにまだまだ不足なのかい。それぢや俺には怎うすりあいゝんだい

一藏　いくら口が巧くつたつて、道理にやかなはねいんだ、こつちや貸主だ

神永　だから拂や文句はねーんだ。證文を書いた借りだつて、破產をすりや文句なしだ。みんなさらけ出してその上に俺の生命を投げ出して居るんだ。其の上まだ文句があるんなら勝手にろ！

大道具　分つたよ！

神永　何が分つたんだ！　口をきくならしつかり分つてくれ！　いゝ加減な事ぢや俺がひつこまねーから。何が分つたんだい？

大道具　おまはんの了見が分つたつて事よ！　元々拂はねー氣なんだね

神永　拂へねーんだ！

大道具　それぢや、あんまり意氣地がなさすぎやしねーかい？

神永　だから品物と俺の生命を出したんだ。その上文句はねえはづぢやねーか

大道具　あるとも！　いゝかい、品物を持つてかふ、その上おまはんの云ふ通り、おまはんの腕を切つて持つてくつたつて、そいつあ出來ねー相談ぢやねーか。出來ねー相談で人を茶にしやうたつて、そんな手にあ乘らねーんだ！

神永　出來ねー相談か、どうか、切りたきや切つて貰はふ！　おい團、その行李を出してくれ

團と尾崎とが衣裳やかつらの行李を出す。神永がその上に乘つて、

神永　さあ、荷物がこれ丈と已の體だ！　頭からでも足からでも、どつちからでも切つて貰はふ！

一座呆然として此の樣をみる。

神永　おい、こいつが本當の不貞腐れと云ふ奴だよ。もう怎うにもならねーんだ！　頭領、俺あみんなにあやまる。一座に代つてあやまる、我慢してくれ！　勘辯してくれ！　俺が意氣地がねーんだ！

と大道具、一藏その他の顏を見合す。

大道具　御前に會つちやかなはねー。もういゝ、怎うでもいゝ！　已あもう何にも云はねーから御前の好きにしてくれ

一藏　已あ、可笑しく成つて來た！

神永　あゝ、金が欲しいな！　金があつてみんなに拂つたらどんなに嬉しからふ。已の樣は何て樣だ！　已にも親があるんだ。こん樣はみせたくねー。みんな已に泣してくれ！

神永が泣いて居る處へ、髮を亂したおふみが走り込んで來る。おふみは「柳さん」と云ひながら柳にすがる。

とおふみの父が走つて來て、おふみをさらつていづれへか走り去る。柳が行かふとする處に止められる。

尾崎　あゝ、夢の樣だ！

暫く、水を打つたやふに靜かになる處へ笹川が電報を持つて來る。

神永（電報をみて）皆見ろ！「ニガワセデスグコイニイツガイセンザ」、新津で芝居が出來た！

新津で芝居が出來るんだ！

一座どよめく。

神永　あゝ、然し乘り込めねー、もうみんな品物は取られたんだ。頭領、今此所で此の行李を解いても七十圓はないと思ふんだ。これを此のまゝ己れに二三日あづけてくれゝば、借金は初日に拂ふ事が出來るんだ。その上利子もつけられる、怎だ？　一ツ己れにまかしてくれないか

（とたてつゞけに云ふ）

大道具（又暗示にかゝつたやふに）まかせやふ！　御互の災難だからな。よし引受けた。俺れにまかしてくれ！　そして此の男を立派な太夫元にしてやつてくれ。皆、己れが賴む。いゝだらふな！

平助　俺あイヤだ！　一文だつて取らなきや一寸だつて動かねーから

大道具（財布を投げ付けて）えゝ、持つてけ！　乞食め！

妓夫は其の金を持つてかへる。彼は正當な事をしたのだけれど、群衆は皆妓夫の方が人外の樣に思はれて氣分が以前と全然變つて來る。

神永　まかしてくれるか……

大道具　かまかせやふ！　俺らはもう一文も錢は入らねー。只大入を取つてくれ！

神永　有難い！　僕はみなさんの大きい心に感謝します。屹度大入を取つて此度は立派に成つて又此の土地へ御禮に來ます！　そして皆さんと會つて愉快に御話がしたいのです！

大道具　あゝ、待つてゐるよ！　屹度來てくれ。俺は待つてゐるからな。そして大入だつたら皆ん所へ電報丈けよこしてくれよ！

神永の顏には「しめたな！」と云ふ風な微笑が浮ぶ。

雨がはげしく降つて來る。

神永　僕は何にも云ひません！　皆さんの御心持丈でも芝居は必ず大入りでしよう。が、私はこんな風にして、皆さんの借を踏み倒はさふと云ふのぢやありません！　ですから吾々一座に貸のある方は、從前通り、新津迄ついて來て頂くか、私を信じて引き取つていたゞくか御心まかせにし度いと思ふんです。まつさきに御父さんだ……

幸藏　今更、己れを置いて行かふともしまいが、己れだつてお前達と別れられると思ふか、手錢

手辨でもう少し苦勞さしてくれよ……

重吉　神永さん、私は少し御願ひがあるんですが、一ッ私のやふなもんでも、役者にして頂けないでせうか。そうなれば、もう貸なんざあ怎うでもいゝんですから……

傳兵衛　あつしも、そう願ひ度いんですが……

神永　（考へて）よからう！　一所に來い！

兩人　どうも有り難う御坐います！

尾崎　さあ恁なると、吾々は、明日の朝早く乘り込むんですが、皆さんとも、もう今夜で御別れしなくつちやなりません。だいぶ夜も更けました。折りからの雨は、雨降つて地かたまる。今夜は一ッ大いに飲んで胸襟を開いて頂かふぢやありませんか

大道具　大賛成！　みんな怎です

皆々賛成する。

尾崎　賛成ですか、では女優さんお酌だ！

女優等皆の盃に酒をつぐ。一同心地よげに酒をのむ。

暫くすると、おわか夢中になつてかけ込んで來て、

おわか　おふみちやんが死んだ！

一同　えゝ？

一同　何處で？

おわか　あの川の堰で……

おわか徑川の膝に取りついてなく。

團　あゝ、やつぱり罪を殘した！

と撫然とする。

柳身悶えながら

柳　あゝ、已れを殺してくれ！　己れを殺してくれ！

と叫ぶ。

戎ホテルは、袂から珠數を出して、合掌する。

風雨しきりに……

―幕―

大正十二年四月二十日印刷
大正十二年四月二十五日發行

著作者　川村花菱

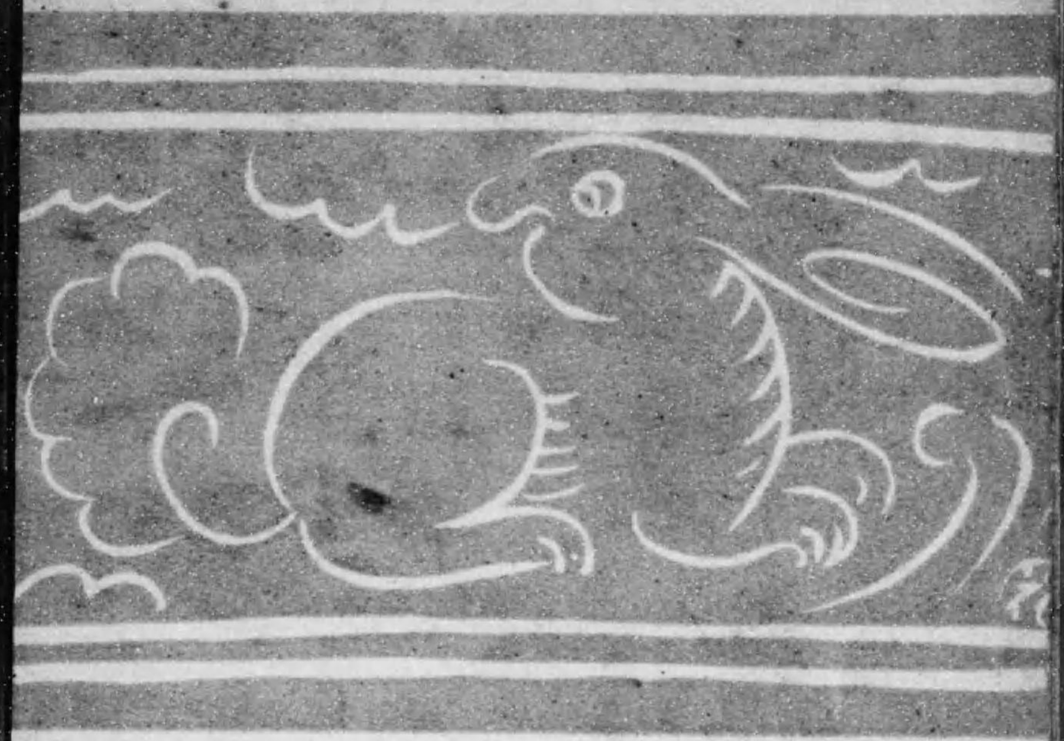
東京市神田區表神保町十番地
發行者　福岡益雄

東京市牛込區早稲田鶴巻町三六二番地
印刷者　寺田國太郎

東京市牛込區早稲田鶴巻町三六二番地
印刷所　早稲田印刷株式會社

川村花菱脚本集
（定價金三圓）

發行所　東京市神田區表神保町十　金星堂
電話神田（三八五三番 四八三一番）
振替口座東京三三二八番



505
61

終